

# 養 氣 軒

ようきけん



Nagasaki Kawatana  
Medical Center

vol. 113  
2026 Winter

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』  
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。



## Hospital Director Greetings 年頭のご挨拶

長崎川棚医療センター 院長

植木 俊仁

Toshihito Ueki

新しい一年を迎えるにあたり、皆さまに謹んでご挨拶申し上げます。

旧年中は地域の皆さま、そして患者さん一人ひとりに支えられ、当院の医療・看護の取り組みを少し前に進めることができたのではないかと考えます。心より感謝申し上げます。

病院という場所は「不安」や「心配」を抱えた方が訪れる場ですが、だからこそ私たち職員は、少しでも皆さまに安心を提供できるよう、日々の業務に向き合っていました。

今後もその気持ちを忘れずに前を向いていきたいと考えております。

近年は医療を取り巻く環境の変化も著しく、困難な病院の経営状態を始めとして、診療体制の整備、働き方改革、人材確保、医療DXへの取り組み、災害に対する備えなどなど、課題を挙げると一年中押し寄せる荒波のようです。一気に胃が痛くなってきましたが、幸い検診の胃カメラでは潰瘍などはありませんでした。「まあ波は来るものだから仕方ない」と気持ちを整え、職員一同で荒波に立ち向かって行きたいと考えます。出来れば大村湾のように穏やかな水面になってもらいたいと願いながら・・・

さて、本年の目標は「より“温かみを感じられる病院”になること」です。医療の質はもちろん最重要ですが、患者さんに「ここは居心地がいい」と感じていただける空気も大切です。笑顔での挨拶、受付や外来での何気ない一言、手術前のちょっとした声かけ、入院中の気持ちに寄り添う姿勢…そうした小さな積み重ねこそ病院全体の温度を作るものだと思います。もちろん私も率先して感じのよい院長を目指します。「仏頂面で声をかけづらい」と思われている方も多いようですので、今年は話しかけられる前から笑顔で対応できるように、日々の体力づくりと表情筋トレーニングに励みながら皆さんに接して行きたいと思っております。

最後になりますが、本年が皆さまにとって健やかで穏やかな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。そして、健康に不安を覚えたときには、どうぞ遠慮なく当院をご利用ください。職員一同全力でサポートさせていただきます。

本年も当院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

A HAPPY NEW YEAR 2026

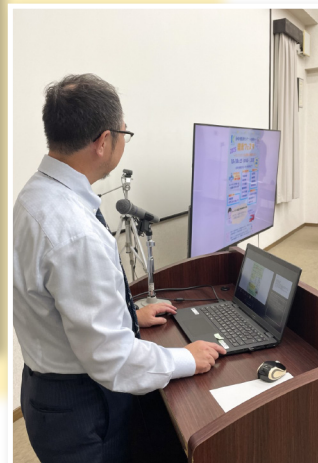
# 災害医療について医師会で講演させていただきました!

外来副看護師長 **松尾 賢史**

東彼杵医師会よりご依頼を受け、災害医療に関する講演をさせていただきました。当院DMAT（災害派遣医療チーム）隊員の徳永外科部長と、松尾外来副看護師長が招待を受け、災害現場での初動対応やトリアージの考え方、インターネットを用いた情報共有方法、実際の活動事例などについて講演を行いました。

当日は24名（医師12名看護師12名）の先生方にご参加いただき、講義後には活発な質問や意見交換も行われました。災害時に地域医療機関が連携して迅速に対応できる体制づくりの重要性を、改めて共有する貴重な機会となりました。

今後も当院は、地域の安全・安心を守るため、災害医療の啓発と体制強化に努めて参ります。



# 令和7年度 消防訓練の実施について

庶務班長 **佐藤 輝宗**

10月1日（水）、消防署の立会いのもと、自衛消防隊（乙編成）による消防訓練を実施しました。

消防法では、一定規模以上の防火対象物の管理者は防火管理者を定め、消防計画に基づき年2回以上の消火・通報・避難訓練を行うことが義務付けられており、そのうち1回は夜間を想定することとされています。今回は3階病棟職員休憩室を火元とし、夜勤帯の火災発生を想定して、人員が限られた状況で総合訓練を行いました。

通報・連絡訓練では、119番通報や自動火災報知設備、館内放送設備の操作を確認し、院内連絡や緊急連絡網の対応を習得しました。避難訓練では、防火扉の閉鎖を含め、階段を使った安全な避難誘導を実施し、担架を用いて患者を安全に搬送する訓練も行いました。消火訓練では、消火器や屋内消火栓の操作手



順を確認し、訓練後には水消火器を使用した消火器訓練を実施。職員は実際に操作を体験しながら、初期消火の重要性と正しい手順を再認識しました。

火災はいつ、どこで発生するか予測できません。今後も患者さまの安全を守るため、定期的な訓練を継続してまいります。



# 新人看護師とヨーキーが行く♪ 川棚のおすすめスポットマップ!



教育担当師長 **松本 深雪**

長崎川棚医療センターの新人看護師が、地域のカフェや食事処などの川棚周辺の魅力を紹介するポスターを作成しました。このイベントを通して、新人同士の絆を深め、楽しく前向きに看護の仕事に取り組めるようになってほしいという願いも込められています。



ポスターづくりの過程で、地域のいいところをたくさん発見できましたし、「情報を集めたり話し合ったりして、町のいろんな特徴が知れてよかった!」という声も聞かれました。

この取り組みを通じて、チームワークもアップし、地域とのつながりもぐっと深まりました♪



# 8病棟6年振りのオータムコンサート♪ 『ふえうた舎』さんによる癒しの演奏会



療育指導室 主任保育士 **松本 明美**

8病棟では、長期療養中の皆様とご家族が共に楽しんでいただける機会として様々な行事・イベントを行っていましたが、2020年以降感染症予防対策の為、このような行事・イベントが休止となっていました。しかし、昨年度より新型コロナウイルスも5類扱いとなり制限が一部緩和され、毎年秋に行っていたオータムコンサートを6年振りに開催することができました。

コンサートは、長崎県域を中心に日本古来の楽器“篠笛”の演奏活動をされている『ふえうた舎』（代表：児島依里子様）をお呼びし、篠笛2重奏とピアノとの演奏を食堂で行いました。また食堂での演奏終了後、各病室での篠笛2重奏のミニ演奏会も行っていました。耳なじみのある歌謡曲、唱歌・童謡、映画・テレビ音楽等演奏され、篠笛の優しい音色に病棟が包まれる演奏会となりました。

6年振りのコンサートに参加者からは「素敵な演奏でした。」と感想が聞かれ、久しぶりの生演奏を喜ばれていました。



会場①



会場②



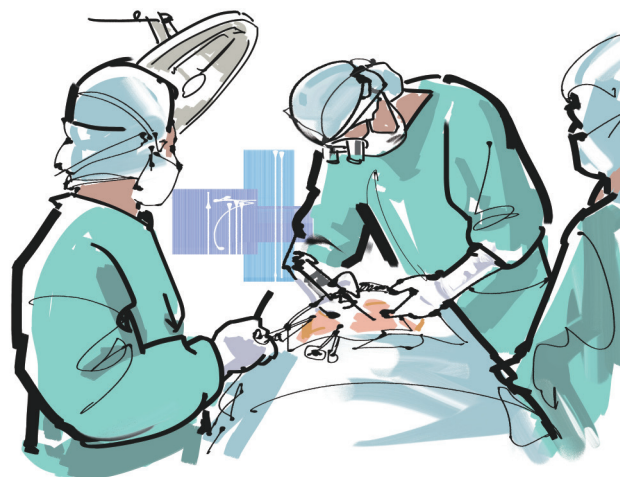
病室

## 診療科紹介(外科)

総合外科部長 徳永 隆幸

長崎川棚医療センター外科は現在、常勤外科医師2名、非常勤外科医師1名で外来診療、手術に従事しています。疾患としては主に消化器疾患を中心に治療していますが、気胸の保存的治療や乳癌に対する手術も行っています。消化器疾患としては虫垂炎、胆石症、単径ヘルニア、胃癌や大腸癌などの悪性腫瘍を治療しています。手術は患者さんにとって不安が大きいものです。当科では病状や治療方針、手術内容について患者さんやご家族が納得いただけるまで丁寧に説明し同意を得た上で治療を進めます。

また、医師だけでなく看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士とも情報を共有しながら治療方針を確認しチーム医療で患者さんを支えます。



専門的な治療が必要な場合は近隣の専門医療機関と密に連携し最適な医療が受けられるように紹介いたします。何かお困りのことがあればいつでもご相談ください。

## 部署紹介(リハビリテーション科)

副理学療法士長 錦戸 正樹

当科は、脳血管疾患や神経・筋疾患、整形外科疾患などにより生じた運動機能や日常生活動作の障害に対し、機能回復と残存機能を最大限に引き伸ばすための治療を行っています。患者さんが家庭復帰や社会復帰ができるようサポートを行い、医師・看護師・薬剤師・栄養士など多職種と連携し、チーム医療を実践しています。

対象となる患者さんの関連診療科は、脳神経内科、脳神経外科、総合診療内科、整形外科、外科、循環器内科、消化器内科などです。また、神経筋難病治療の専門施設でもあるため、治療・検査・レスパイト目的に入院した患者さんのリハビリも行っています。

スタッフは、理学療法士10名、作業療法士5名、言語

聴覚士3名、リハビリ助手2名で構成され、脳血管疾患等リハビリ(I)、運動器・呼吸器・心大血管リハビリ(I)、がん患者リハビリなどの施設基準を取得。平成28年8月から地域包括ケア病棟でのリハビリ、令和5年6月からは外来心臓リハビリテーションを火、金の午後に実施しています。

患者さん一人ひとりに寄り添い、質の高いリハビリの提供を目指し日々業務に取り組んでいます。



## 編集後記

教育担当師長 松本 深雪

丙午の年を迎えました。丙午は十干十二支の組み合わせで、火の陽気が強く勢いのある年とされています。昔は「丙午の年に生まれた女性は気性が強い」との俗説から、出生数が減った歴史もありましたが、現代ではその力強さを前向きな象徴として捉えられています。

医療現場も、この活力を味方に、より良いケアと安全な環境づくりを目指してまいります。患者さまに安心・安全な満足される医療を届けるため、チーム一丸となって挑戦を続ける一年にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。